一八朔御太刀獻上窺　寄合　室賀兵庫

私儀家督之御禮未申上候得共、從部屋住之内、五節句月並御禮出仕候間、當八朔登城仕、御太刀目錄獻上、御禮可申上哉、大納言樣江も同樣獻上可仕哉、此段奉伺候、以上、

七月廿七日　寄合　室賀兵庫

同年七月

一八朔御太刀獻上窺　寄合　青山喜右衞門

私儀退役後今以病氣罷在候ニ付、來ル八朔御太刀目錄、以使者獻上可仕哉、退役後初而之義ニ付、此段奉伺候、以上、

七月　寄合　青山喜右衞門

〔梅松論下〕一或時夢窓國師談議の次に、兩將の御德を條々褒美申されけるに、先將軍○足利尊氏の御事を仰られけるは、國王大臣、人の首領と生るゝは、過去の善根の力なる間、一世の事にあらず、こと に將軍は、○中略御心廣大にして、物惜の氣なし、金銀土石をも平均に思召て、武具御馬以下の物を人々に下給ひしに、財と人とを御覽じ合る事なく、御手に任て取給ひし也、八月朔日などに、諸人の進物共、數もゑらず有しかども、皆人に下し給ひし程に、夕に何有とも覺えずとぞ承し、

〔親元日記〕寛正六年八月朔日丙子、出仕如例年、貴殿已下御進物式部丞持參之、別記之　佐々木馬淵進上太刀、金馬、次郎四郎渡之御返太刀、金貴殿江二百疋、御返白木一張、染革二枚、今出川殿江八朔御禮在之、

文明十七年八月朔日己卯　一東山殿御憑所へ、貴殿より、點心、むし御さかな、すし、のし鮑、柳三荷、

〔御隨身三上記〕永正九年八月

一朔日、依所勞出仕不申、李部へ八朔のぎ、大刀、金三郎□□○中略